

日本は幸せな国だと思う。そして、今回作文を書くのにあたって、この住みよい環境を支えているのが税金だということを知った。

例えば、教材の無償提供。ゴミの処理や警察・消防などの公共サービスの充実。教育も当たり前のように受けられ、道路や交通機関も整備されている。

このように、普段の生活は私たちの納める税金によって支えられているといえるだろう。

しかし、日本では税率が上がることにに対して不満に思う人が多いように感じる。中にはお金を持っていても滞納する人もいる。

ではなぜ、日本では様々なサービスが充実しているのにも関わらず、増税に対してあまり良い印象が持たれていないのだろうか。

そこで、消費税が二十四%と世界的に見てもかなり高いのに、「世界幸福度ランキング」で五年連続一位を獲得しているフィンランドについて調べてみた。

消費税が二十四%と聞くと今の日本の消費税の約二・五倍で不満を持つ人が多いように感じるが、フィンランド人のおよそ八割が高税を納めることに納得しているようだ。

フィンランドでは、大学までの学費や医療費が無料で失業保険や子育て支援が充実しているうえ、国民に税金の使い道が明確に示されているので、負担が大きくてもメリットが感じやすくなっている。なので、負担率が高くても不満が出にくいと思われる。

では、どうすればフィンランドのようにみんなが税金を気持ちよく払えるのか考えてみた。

まずは税金の使い道や増税する理由を国民が知れるようにすることだ。こうすることによって、税金の使途が透明化し、安心して税金を納めることができると思う。そのためには、国が税金について国民に広く知ってもらうように取り組むことが必要である。だが、何よりも大切なのは私たち自らが税金について積極的に知ろうとすることだと思う。

「これ以上の増税はきつい。」「税金なんかなくなればいいのに。」といった不満を口にする前に、なぜ今回増税が行われたのか、何のために税金を納めなければならないのか、自分なりに考え、調べる。このことによって、税金を納めることにに対して前向きになり、これまで自分自身が税金によって受けてきた恩恵に改めて気付くことができるのではないだろうか。

今回税金について調べて、国と国民が信頼関係をより深めていくことで、誰もが日本は幸せな国だと言えるような社会になればいいなと思った。

私の中学校では、二学期から公民の授業が本格的に始まる。責任と義務を果たし、社会に貢献できるような大人になるために税金についてしっかり学んでいきたい。